岡山・旭川荘「悠久の庭」完成

貢献3人 レリーフに

園も学え 川替て 旭建

社会福祉法人旭川荘（岡山市北区祇園）で5日、名誉理事長江草安彦さんら法人の発展に貢献した故人3人のレリーフを配した「悠久の庭」の竣工式が行われ、関係者約80人が功労者の遺徳をしのび、さらなる飛躍を誓った。

庭（約370平方㍍）は、同荘創立60周年記念事業として、知的障害者・児の入所施設「旭川学園」の南側に整備。レリーフは日本芸術院会員の彫刻家蛭田二郎さんが制作し、万成石（高さ1・8㍍、最大幅1・8㍍、奥行き0・7㍍）の碑に、創始者で初代理事長の川崎祐宣さん、肢体不自由児施設・旭川療育園名誉園長の堀川龍一さん、江草さんを描いた銅板（縦60㌢、横90㌢）をはめ込んだ。

式では、末光茂理事長が「障害者とその家族の幸せを願った3人の理想の実現に今後もまい進したい」とあいさつし、3人の遺族らとレリーフを除幕した。庭は1100以上の個人・団体の寄付で造られ、法人の沿革を記した石碑やベンチも置かれている。

この日は、老朽化に伴い全面的に建て替えた旭川学園の落成式もあった。居室を個室にしつつ、数人で共同生活するユニットケアを導入した生活棟（鉄骨2階）など計6棟延べ約2780平方㍍を新設。4月から約50人が利用しており、出口隆一園長が「よりよい運営ができるよう職員と力を合わせたい」と述べた。

旭川荘は1956年に創立。川崎さんとともに堀川さん、江草さんが施設運営、医療と福祉の融合などに尽力した。11月に60周年記念式典を開く。

（平田桂三）





㊤川崎さん、堀川さん、江草さんの姿が描かれたレリーフを除幕する関係者㊦全面的に建て替えた旭川学園

2015年9月6日 山陽新聞朝刊 30ページ （C）山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。